

第一回 一服一首 結果発表

金賞

あさがおをいえまではこぶがっきまつぼくのからだにしみわたるおちゃ
きたむらゆいと

銀賞

食後には熱い緑茶が句読点そんなところが気の合うふたり

高田智子

銅賞

朝宮のみどりにひかる茶畑で腰曲げ茶葉摘む祖母のしわの手

ナマ茶

永田淳賞

冷えたお茶木もれ日の中差し出した少しでも君を止めてたいから

岩倉美桜

立木神社賞

藤まつり一期一会のお茶会に春のひととき心潤う

藤田加奈子

千紀園賞

初濃茶飲み干す娘の手いと小（ち）さし案ずるをこえ誇らしくあり

中易早織

とびら文庫賞

初手の前お茶をひと口啜るのがルーティンという藤井六冠

船岡房公

秀逸・・・四首

油断した今日の練習走墨だ水筒ふるとたよりない音

金谷昂明

茶を点てて君といっしょに飲む空間景色見るより君を見るかな

正福寺

茶柱が立ったと笑う君の顔茶柱よりも幸せを生む

はししお

泡粗し覗き込みつつ首傾ぐまばたきの間に干支ふたまわり

中易早織

佳作・・・三十一首

茶の時間飲んで一息もう一杯安心できる和の部屋で

松ヶ枝晃貴

和菓子のね甘いお口にほろ苦茶一息ついて日本感じる

山下彩桜

縁側で祖母と見上げる晴天の空お茶を片手に楽しい一時

井口陸人

疲労感ただよう体に一杯のお茶をそそいでほっと一息

大瀬良琉斗

友だちとお点前練習茶華道部お茶たて泡で競う放課後

青木知花

友人が麦茶飲み干す夏の午後涼しく思う氷の音

駒村菜緒

茶を淹れる君の姿が変わっても味と気持ちは変わらない

芭蕉の場所とろ

坂の上茶店めがけて駆けてゆくゆらゆら輝く君はひまわり

藤澤ゆうな

汗たらし魔の白球を投げ込んで兄の体に染みこんでゆく
祖母の味注いで光る氷の音（ね）心涼しきガラスの麦茶

西田悠乃

茶もちて寝室のぞいて見てみれば横たわる母覚悟を決める

原優愛

四阿で一息吐くは親と児等氷で冷えた水筒の御茶

近藤悒哉

キンキンのジョッキにそそぐウーロン茶いつも運転ありがとう

きょんきょん

雪が降る駅のホームで茶を一杯心暖める優しい苦み	倉田晃牙
別れ時ぬるくなった水筒はほんのり苦い味口に残った	安藤琴音
お服加減いかがと問えば美味しいね母の笑顔が満ちゆく時間 幼き日ともに学びし茶の友の幼子囲み茶の味深し	竹原萌乃
学友を久しぶりねと茶に誘い「部活みたいね」お菓子をどうぞ	空木
師と私同じ抹茶も違う色点て方ひとつで萌黄に若菜	大江弥生
お茶づけで最後の一粒まで食（は）みし父と囲んだ円卓の艶 園児らの寝息のしぐれ昼寝どき仲間と共にお茶を飲むとき	茶子
一服と星降る夜の気づかいに祭儀の終り涙こぼるる	高月清子
一碗に重ねし歳月思いつつ嫁ぐ娘を笑みて見送り 茶碗持つ伸びたる指の美しさ師の所作見つめ道を深める	辻久美子
アオサギが弁天池で狩りすれば茶筌上げる我が身重なる めだか鉢主人（あるじ）が見えぬ緑水ふと見立てる夏の茶の湯	みそあん
守破離の道の半ばに身を置けば利休の心の悠久に触るる	一風句
舌の上にカーニバルの香をひらきたりマセナ広場の加糖の緑茶	松岡京子
茶花とは野に咲くごときあらましを床を荘るは人の気まぐれ	上田文子
たっぷりと新茶注（つ）がれて緑陰の山の茶店に五月呑み干す	深堀英子
西日さす夏のキッチンただひとり茶筌を振れば我は消えゆく	佐藤孝代

【お問い合わせ先】
 茶道教室 童庵（担当：望月宗優）
 電話：080-4395-2621
 Email：douan.ocha@gmail.com